

一般財団法人 有本積善社 第 44 回番組審議会議事概要

- 1 開催年月日：令和 3 年 8 月 19 日（木）16：00～17：00
- 2 開催場所：京都府舞鶴市字円満寺 158-6 西市民プラザ 2 階 市民活動団体活動室
- 3 委員の出席：
委員総数：7 名 出席委員数：5 名
出席委員の氏名：水嶋純作、今安博和、山内茂樹、山下美晴、楠崇智（メールコメント含む）
欠席委員の氏名：尾関善之、松井恭子
放送事業者側出席者名：ジェネラルマネージャー 時岡浩二
放送局長 中西 進
制作チーフ 上田秀篤

4 議題

(1) 報告事項

- ① 「食の舞鶴 775」という番組を月～金曜日の 17:00～17:10 に放送している。地元飲食店、食品販売店などをインタビュー形式で紹介する番組。コロナ禍で営業に困っているこれらの店を応援する意味合いがある。You Tube でも動画を配信している。
- ② 日星高校看護科の生徒たちが 8 月上旬、西舞鶴マナイ商店街の閉まっているシャッターに絵を描く「シャッターアート」の活動をしたのを生番組中で中継した。また、その模様をクールチョイス 775 若者編としても放送している。

(2) 番組審議

2021 年 8 月 6 日（金）23:00～23:30（8 月 13, 16, 20 日の同時刻に再放送）

特別番組「ダイアログ・イン・ザ・ダークの精神」

純度 100%の真っ暗闇に見えるものは何か？真っ暗闇のエンターテイメント

ゲスト：ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン 代表：志村真介

総合プロデューサー：志村季世恵

舞鶴市視覚障害者協会 会長：宮森克己、副会長：清本隆行、理事：神田昌胤

司会：FM まいづるパーソナリティ 奥野あかり

番組概要：

真っ暗闇のエンターテイメントと言われる「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を通して、視覚以外の様々な感覚による新しいコミュニケーションの可能性をラジオで紹介。日本で主宰されているダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンから代表と総合プロデューサーにリモート出演頂き、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」の魅力や可能性、地域や地方での活用方法などを伺った。舞鶴市視覚障害者協会の皆様にも参加いただき、視覚障害者と地域の関わり方についても対談をおこなった。

5 議事の概要

- ① 上記（1）項の報告内容を審議委員に説明。
- ② 上記（2）項の審議番組に対する意見を審議委員各位から聴取。

6 審議内容

【審議番組に対する委員の主な意見】

- ① とりくみ自体がすごく良い。30 分の番組としてうまくまとめ上げていた。
- ② ラジオならではの企画、特別番組としてとてもいい企画であった。ずっと入っていける構成だった。出演者にとっても、良い機会と感じているのがわかった。

- ③ 司会者は、進行部分とお知らせ部分とゲストの方とのやりとりの部分など、メリハリがあつてとても聞きやすかった。特に志村さんとのやりとりは、相手にテンポを合わせて上手に進められていた。
- ④ ダイアログ・イン・ザ・ダークの紹介が良くわかった。森を探索する部分は、お試しではあったが、日常にいながら違う世界がはっきりと見えた。
- ⑤ 10分ほどの番組として毎日放送しても成立するのではないかと思える程であった。ずっと続けてもらいたい位である。
- ⑥ 視覚障害者協会の方々のお話もとてもためになった。ただ、ゲストが多すぎると、一人一人の話が薄れてしまう部分がどうしても出てくる。その点が少し残念であった。
- ⑦ ラジオで感覚を研ぎ澄ます番組を作ってほしい。
- ⑧ 視覚障害者の方々は「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を知らなかったそうだが、自分達のコミュニティだけではなく、他のコミュニティにつなぐ機会になったことと思う。ラジオだからこそ出来る番組は大事にしていかなければならない。
- ⑨ よい番組だが、放送時間が23時からでは遅い。もっと多くの人に聴いてもらえる時間にしたらよかった。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

当審議会が出た意見を局内会議で議論し、今後の番組構成・内容等の改善に資することとした。(令和3年8月26日)。

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 令和3年9月2日 この審議会議事概要を演奏所事務所に備置き、閲覧できるようにした。
- ② 令和3年9月2日 この審議会議事概要をホームページに掲載した。

9 その他の参考事項

特になし

以上